

Ein Fall von Erythromelalgie

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38286

面高率數(京都標本) (乙) Hologesichtsschädel 著シク多ク金澤標本 (甲) Niederagesichtsschädel 多ク京都標本 (乙) 共ニ男性ハ多ク女性多シ金澤標本 (甲) 女性ニ多ク (乙) 男性ニ多數ナリ金澤標本ハ計測數ノ關係アルベキモ一般ニ京都標本ヨリ小ナリ、顱骨、顱面高率數(京都標本) (乙) Leptroprosope Obergesichtser 稍々多ク金澤標本 (甲) Chamaeprosopie Obergesichter 著シク多シ、京都金澤標本ノ男性 (甲) (乙) 共ニ女性ヨリモ多シ京都標本ハ計測數少キニモ不拘金澤標本ヨリモ一般大ナリ、眼窩、幅高率數(京都標本) 共ニ (丙) Hypsikonchie 最モ多ク (乙) Mesokonchie 前者ニ半ハシ (甲) Chamaekonchie 最モ少シ、而シテ此三種ハ京都標本ヨリモ金澤標本ニ多ク又女性ハ三種共ニ男性ヨリモ少シ、京都金澤標本ノ男性ハ稍一致スルモ女性及計測頭蓋全体ニ於テ京都標本ハ計測數少キニモ不拘稍々金澤標本ヨリモ大ナリ、鼻高率數(京都金澤標本) 共ニ (丙) Platyrrhinie 最モ多ク (乙) Mesosorhinie 其ノニ次キ (甲) Leptorhinie 少ク (丁) Hyperplatyrrhinie 最モ僅少ナリ此四種ハ何レモ金澤標本ハ京都標本ヨリモ多シ、(甲) (乙) ハ男性ニ著シク多數ニシテ (丙) (丁) ハ女性稍々多シ、金澤標本ハ一般ニ京都標本ヨリモ大ナリ、口蓋、長幅率數(京都金澤標本) 共ニ多ク (甲) Leptostaphylie ニシテ (乙) Mesostaphylie (丙) Brachystaphylie ハ僅少ナリ (甲) ハ男性金澤標本女性京都標本 (乙) ハ両性共金澤標本 (丙) ハ男性京都標本女性金澤標本ニ多シ、京都標本ノ男性ト金澤標本ハ一般ニ一致シテ大ナルモ計測數ノ多キ京都標本ノ女性及計測頭蓋全体ハ著シク小ナリ

男性ハ前頭最小幅徑(京都標本) 下顎枝角(金澤標本) 幅高率數(金澤標本) 眼窩幅高率數(京都金澤標本) 鼻高幅率數(京都金澤標本) ノ五ヲ除キ他ハ何レ

モ女性ヨリ大ナルモノナリ (未完)
(卷末ニ正誤アリ)
(大正元年十二月稿)

● 紅肢痛ノ一例

Ein Fall von Erythromelalgie.

石川縣江沼病院醫員 岡田申吉

紅肢痛ニ就テハ十全會雜誌第六十二號ニ同窓楠田利一郎氏金澤病院及諸大家ノ報告并ビニ其症狀原因等詳シク記載サレタルヲ以テ茲ニハ唯小子ガ實驗シタル一例ヲ舉ゲ餘ハ該十全會雜誌ニ讓ラントス

福井縣坂井郡北潟村

患者 農 某 ヲマ

二十一年

初診 大正元年十二月二十日
發病 大正元年十二月九日
入院 大正元年十二月二十日
婚嫁 大正元年九月
両側上肢、下肢ノ末端對稱的ニ發作的電擊様疼痛暗紫赤色ノ腫脹
振頭
既往症 生來健全ナルモ時々胃痙アリ、本年十一月ヨリ癱疾及梅毒ニカ

カル 性質 溫順、慣癖ムグリバラ、學業小學二年、喫茶、喫煙、飲酒

セズ

遺傳的關係 父酒客死亡(胃瘵?)母健存

血族の關係、父母(叔父、姪添) 祖父母(從兄妹添)

現病ノ既往症 大正元年十二月九日勞働時何事モナカリシガ野ヨリ歸リ

爐ニテ足ヲ暖メシニ突然兩側下腿足趾ニ對側のニ電擊様疼痛暗紫赤色腫脹

トナリ漸次兩側足脊、下腿全部及手腕關節以下(手背、手掌、指)ニ發作的

ニ來リ發作時手、足振顫ス、雖然冷處ニ至レバ其疼痛ヤ、緩解セリ其後該

疼痛ハ常ニ持續的ノ感ニシテ發病以來睡眠スルコトナク轉々反側ス隣人等

未ダ嘗テ見ザル疾病トナシ種々手前療治ナナセシモ效ナク唯手足水中ニ

浸スニヨリテ稍苦惱ヲ輕減スルノミナリト

現症

視診 体格上等營養中等皮膚蒼白、眼瞼結膜稍貧血、皮下脂肪ニ富ム

(四肢)兩側ノ手(手背手掌指)對側のニ發作的の或ハ持續的ニ電擊様疼痛ヲ來

シ暗紫色ニ腫脹、緊張シ且ツ振顫ス下肢ハ下膝關節以下同様ニシテ上肢

下肢トモ關節ノ運動障礙及關節痛ヲ來シ直立獨歩セントスルモ後方ニ倒ル

觸診スルモ別ニ疼痛甚シカラズ

入院當時足ノ手ヨリ疼痛甚シキ時ニハ足ヲ水中ニ浸シテ椅子ニ坐シ兩手ヲ

前方ニ手背ナ上ニ水平ニ出シ指ヲ下方ニ垂レテ振顫シ手ノ甚シキ時ニハ手

ヲ水中ニ投ジテ俯臥シ足ヲ水平ニ後方ニ延長シテ振顫シ恰モ惡寒戰慄ノ如

キモ發熱等ナク且ツ夜間ニテモ安眠セズ轉々反側時アリ涕泣スルヲ聞ク

頭部 異狀ナシ

顔面 蒼白、圓形、無欲狀、口唇半開

眼 視力異狀ナシ、瞳孔正、反應アリ、眼底充血靜脈ノ努脹迂回甚シ

頸部口腔 異狀ナシ

胸部 肺打聽診異狀ナシ心臟稍心季元進ス、背部異狀ナシ

腹部 異狀ヲ認メズ

生殖器 視診、觸診、外陰部大腿內側肛圍ニ豌豆大濕性丘疹生シ肛圍ハ

爲メニ灰白色ニ糜爛ス

小陰唇左方長サ約四仙右方長一仙弱一種奇觀ヲ呈ス、外尿道口ヨリハ膿ヲ

洩ス

內診 位置異狀ナシ、子宮外口稍糜爛シ梅毒性小潰瘍アリテ出血ス、膈

壁ニハ丘疹ナク小水泡様發疹アリ

脈搏 七十八、中(緊張度)

血壓 不計 血液検査、腦脊髓液検査、遺懣ナガラセザリキ

体温 三十六度六分ヨリ三十七度四分ノ間ヲ走ル

反射 角膜、懸雍垂、咽頭、消失

筋肉反射亢進、膝蓋反射甚亢進、射足反射アリ、「バビンスキー」

ナシ

食欲 不振

便通 一日一回、濕性丘疹アルヲ以テ排便困難、便中十二指腸虫卵、鞭

虫卵アリ

尿利 一日十數回性状混濁酸性、蛋白、糖ナシ

月經 初經十六才正月 不正(五—三ヶ月間閉經、少量、當時腹痛アリ)

變質徴候 小陰唇異狀、耳珠少、眉毛ト髮彩トノ距離稍近シ

診斷 四肢末端對側的ニ來レル紅肢痛

合併症 梅毒、癩病（ヒステリー、神經衰弱）

原因 素因 血族結婚

誘因 梅毒、癩病

療法 入院當日撒曹、ヒリン、沃剝等ノ内服、局所ニハ「コロ、フオル

△、カンフル丁」等分ノモノ塗布十二月廿三日ヨリ驅梅療法トシテ隔日ニ

「アズロール」一〇、〇注射ヲナセリ外陰部、肛圍大腿内側ノ丘疹ニハ甘芥

澱等分散布、驅虫ハ後ニセリ

入院安靜療法ノ爲メカ廿三日ヨリ四肢ヲ水中ニ浸サズナゲ出シノ狀トナリ

塗布藥ヲ用ヒテ稍輕快セリト云フ

「アズロール」ハ隔日之ヲ臀筋ニ注射シ陰部ノ發疹益々消散スルニ至ル、廿

八日ニ至リ又々疼痛甚シク、不安、睡眠セズ、時々號叫シ本年一月三日未

治退院スルニ至ル

依是見是本患者ハ紅肢痛ナルコト明白ナルモ其原因ノ梅毒ニ因スルヤ果タ

血族結婚ニ關スルヤ闡明スルコトヲ得ザルモ此ノ兩者ニ存スルコト疑ヲ容

レザルベシ、又「アタキシ」アリ膝蓋髓反射頗ル亢進スルモ「バビンスキ

」ナク足反射アルニヨリ「アタキシ」ハ足蹠疼痛ノ爲メカ、サレバ側索

ノ犯サレタルモノニ非ズ故ニ從來稱フルガ如ク末稍神經ノ犯サレタルモノ

ナラン

附記 患者ノ言ニヨレバ同村ニテ十四歳ノ男兒爐邊ニアリテ足ヲ暖メ灼

熱感ノ爲メカ轉々スト或ハ本患者ト同ジキモノナラン。

孤 録

●下平博士學位論文審査ノ要旨

學 位 記

石川縣平民

從五位勳五等 下 平 用 彩

右論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ東京帝國大學醫科大學教授會ニ於テ其大學院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者ト同等以上ノ學力アリト認メタリ仍テ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二號ニ依リ茲ニ醫學博士ノ學位ヲ授ク

論文審査ノ要旨

ビール氏鬱血療法ノ效能ニ就テノ實驗的補遺(獨文)

當初專ラ骨及關節結核症ニ有效ナリトシテ使用セラレタル所謂ビール氏鬱血療法ナル者ノ近時ニ至リ亦諸種ノ急性炎症疾患ニ應用セラレテ奏效顯著ナル者アルコトハ今ヤ普ク臨床家ノ是認スル所ナルモ獨リ其效能ノ本體ニ至リテハ從來諸家ノ説ク所區々トシテ未タ歸着スル所ナシ本業蹟ハ曩ニ著者カ瑞西國「ベルン」大學在學中衛生及細菌學教室ニ於テ教授ワキルヘルム、コレル氏ノ許ニテ研鑽シタル者ニシテ論文ハ緒論ト(一)鬱血療法ニ對スル臨床的觀ノ梗概、(二)鬱血療法ノ效能ニ關スル從來ノ實驗及學理的說明、(三)自家ノ實驗及(四)終末觀察及總括ノ四項ヨリ成リ而シテ自家ノ實驗ハ更ニ(一)「オプソニン」ノ試験(二)補體(コンプレメント)ノ試験(三)補體結合物質ノ試験(四)「アゲルチニン」ノ試験及(五)殺菌方ノ試験ノ五項